

# 令和7年度若年層献血推進アクションプラン

## 1 はじめに

全国的に若年層の献血率が減少する中、平成28年度の本県における10代から20代の献血者の構成比率が全国45位となったことを受け当該プランを策定し、取組を進めたところ近年は徐々に順位を上げ、令和5年度における比率は全国28位となったところである。

また、令和5年度までは10代から20代の献血者の構成比率を目標としているが、令和6年度からは10代および20代の献血者数を目標として設定している。

引き続き若年層献血者の確保に向けて、関係者が連携し、効果的に普及啓発を実施する必要があることから、「令和7年度若年層献血推進アクションプラン」を作成し、若年層献血推進のための実行計画とする。

### 令和7年度目標

10代から20代の献血者数について、次のとおり目標を設定する。

	令和7年度 目標献血者数	令和5年度		(参考) 令和5年度世代別献血率			
		献血者実績	献血率	30代	4.9%	50代	8.9%
10代(16～19歳)	2,938人	2,287人	4.0%	40代	6.4%	60代	4.9%
20代(20～29歳)	7,452人	6,450人	4.4%			全世代	5.9%

※ 目標献血者数については、日本赤十字社近畿ブロック血液センターが示す人数に準ずる。

## 2 献血推進イベント等の実施

### (1) 愛の血液助け合い運動の実施

主体：滋賀県、滋賀県献血協会

内容：厚生労働省が主催する「愛の血液助け合い運動」に合わせて啓発資材を作成し、県内各所で配布する。

キャンペーンポスターについて、県内の高校・大学等に掲示を依頼する。

時期：令和7年7月

### (2) 学生限定献血キャンペーンの実施

主体：滋賀県献血協会

内容：献血者が減少しがちな秋季から冬季にかけて、献血をすると記念品が進呈されるキャンペーンを実施する。

キャンペーンチラシの裏面には、献血に関する基礎知識等を掲載するなど、より身近に献血を感じてもらえる工夫を行う。

時期：令和7年12月～令和8年3月

### (3) 「はたちの献血」キャンペーンの実施

主体：滋賀県

協力：滋賀県赤十字血液センター

内容：厚生労働省が主催する「はたちの献血」キャンペーンに合わせて、若者を対象とした広告をSNS上に掲載する。

キャンペーン用啓発資材は、各市町で開催されるはたちのつどい会場や県内大学・専修学校等において配布する。

時期：令和8年1月～2月

### 3 学生向け献血事業の取組

#### (1) 県内各高校への依頼

主体：滋賀県（教育委員会事務局と連名で発出）

内容：令和7年度における献血学習実施状況アンケート調査および次年度に向けた献血学習の実施依頼

#### (2) 献血セミナーの実施

主体：滋賀県赤十字血液センター、滋賀県

内容：高校へ献血学習を依頼する際に、滋賀県赤十字血液センターが実施する献血セミナーについて案内し、実施を呼びかける。

また、高校等から県薬務課に薬物乱用防止教室等の講演依頼があった際には、献血セミナーの同時開催を依頼する。

時期：年間通じて随時

#### (3) 高校献血の実施依頼

主体：滋賀県、滋賀県赤十字血液センター

内容：献血学習実施依頼文の発出に合わせて、高校献血の実施についても各高校へ文書で依頼する。

献血学習実施状況アンケートの結果を踏まえ献血学習に積極的な高校に連絡を取り、直接訪問して、高校献血の実施を依頼する。

時期：年間通じて随時

#### (4) 高校関係者への協力依頼

主体：滋賀県

内容：公立高等学校PTA連合会・高等学校長協会等において献血の現状と高校献血について説明し、各献血事業の実施を依頼する。

時期：令和7年6月～

#### (5) 県内大学等への献血協力依頼

主体：滋賀県赤十字血液センター、滋賀県

内容：県と滋賀県赤十字血液センターが一体となり、県内大学等を訪問するなどして、キャンパス内への献血バス配車に対する協力を依頼する。

時期：年間通じて随時

#### (6) 学生による街頭献血キャンペーンの実施

主体：滋賀県学生献血推進協議会

内容：滋賀県学生献血推進協議会が中心となり、夏季（サマー献血）、秋季（ハロウィン献血）および冬季（クリスマス献血）において啓発イベントを実施する。

時期：令和7年4月～

#### (7) 学生による若年層向けパンフレットの製作

主体：滋賀県学生献血推進協議会

内容：学生が目線で同世代に対して献血をアピールする内容のパンフレットを作成し、高校生・大学生等に配布する。

時期：令和7年4月～